

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

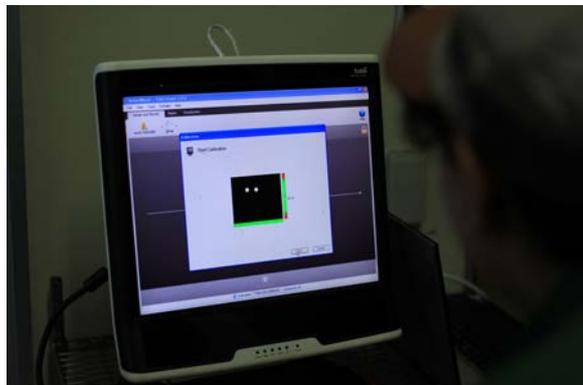
平成 26 年 8 月 15 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・博士課程学生
氏名	沓間 領

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
熊本県 野生動物研究センター 熊本サンクチュアリ
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
比較認知科学実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 26 年 6 月 17 日 ~ 平成 26 年 6 月 20 日 (4 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学 野生動物研究センター 熊本サンクチュアリ
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
今回の渡航では PWS の必修プログラムの1つである比較認知科学実習を行うために熊本県にある京都大学野生動物研究センター熊本サンクチュアリに行った。熊本サンクチュアリとは、元々企業のチンパンジーを利用した医学実験施設であったものが、チンパンジーが幸福に余生を送ってもらうための施設になった物である。現在は京都大学野生動物研究センターが運営を行っている。
[実習内容]
チンパンジーのタッチパネル実験及びアイトラッカー実験の観察、チンパンジー(ブラック群)の個体識別、チンパンジー、ボノボの行動観察。ボノボ用タッチパネル実験装置の設置、エンリッチメント実習
[感想]
熊本サンクチュアリでの実習を終えて一番心に残ったのが、サンクチュアリの職員の皆さんとチンパンジー、ボノボ達との信頼関係の強さである。研究においても、タッチパネル実験やアイトラッカー実験などを行うかどうかはチンパンジー達を選ぶことができ、決して強制はしない。人と話すときのように話かけながら色々な作業を行う。そういった1つ1つの職員さん達の気遣いに強く心を打たれた。今回の実習では環境エンリッチメントの一環を体験するためにチンパンジー、ボノボの住処の清掃などを行ったが、そこに住んでいる動物達の事を考えながら作業すると一層作業に身が入った。 人間の都合で野生と違う環境に連れてこられたのだから、少しでも動物達に幸せになってもらおうと努力する義務が人間にはあると思う。ここ熊本サンクチュアリを訪問して、動物の幸せを第一に考え、その気持ちを理解しようとするのが、これからの動物福祉にとって重要な実感した。
<平成 26 年 5 月 28 日制定版> 提出先: report@wildlife-science.org

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



ボノボ



アイトラッカー実験の体験

6. その他 (特記事項など)